

日本風景街道に参加していただいている多数の地域・ルートを訪れる機会がありました。「シーニック・バイウェイ北海道」も入れると全部で27ルートになります。各ルートで美しい風景、美味しい食べ物、歴史、芸能、名産品を楽しませていただきました。そして、何よりも地域を愛し、何とか地域や街をよくしたい、と真剣に取り組んでおられる皆さんと一緒に、共通の体験をもち、時間を過ごせ、深い議論ができました。これは、社会資本や道路の整備政策を研究している私にとって、大きな収穫でした。改めて、視察でお世話になり、多くのことを学ばせていただいた皆さんにお礼申し上げます。

# 日本風景街道で輝く人たち

筑波大学大学院  
石田東生教授

## 連載企画を始めます

日本風景街道で多くの風景を美しくしたい」となりました。全国津々浦々、色々な取り組みをしようがない」とおっしゃいました。地域に根を張り、頑張っている方ばかりです。言葉を交わすと

しょう。そして、大事な海を支えるものが磯です。ここでの磯とは、単に波打ち際のことだけではなく、海で生きる人々、港と街、海を取り巻く川・森という広い範囲を意味します。

■「日本風景街道 熊野」(和歌山県)の代表・古守一晶さんの「人の景色がよい」と「気がついたものの責任」

一生涯命に花植えを中心とする地域活動とされている理由を、さうと「そのことの必要性と大事さ」に気がついたか

■大分と宮崎にまたがる海とそこの生業・暮らしをテーマにされている

■新潟県山古志の「日本風景街道・よりみち街道『中越』」の丸山結香さんは「限界集落だからその挑戦」とおっしゃいます。ご存じのように、山古志は3年前の新潟県中越地震で大きな被害を受けました。

しかし、それ以前に過疎の村であり、高齢化が進んで65歳以上の方が過半数を超える限界集落がたくさんあります。

集落消滅の危機に直面している厳しい状況の中で、風景街道の一つの契機として、限界集落が元気になる農業と観光のあり方を追求されており、成果を上げつつあります。

全国各地には、同じように熱心に取り組まれ、熱い気持ちと希望、構想を自分自身の言葉で語る方が大勢います。自分自身の言葉で地域の実情を語り、課題と希望、そして構想を共有することが、これからの公共政策、地域おこし、社会資本政策にとって、極めて重要だと考えています。

## 地域の人々の「みち」への思い

# 生の声を読者に

佐渡国しま海道 意見交換会

このような言葉、気持ちには、あまり都会にいる我々には伝わってこないように思います。そこで、地域に生きる人々ととって「みち」が持つて

千曲川・花の里山風景街道



いる意義や「みち」への期待、それらを実現するために努力されている生々の声を「ルートプレス21」の読者にお伝えしたい、と構構したい、と思います。そのよ

行われているから、皆さる「蒲江・北浦大漁海人の表情がよく「人の景色がよい」ことになりまは「言葉と磯力」という要素として重要であるとは、海の持つ力によって生計をたてることで、

■北海道の「東オホーツクシーニック・バイウェイ」の高谷弘志さんは「仲間と一緒にあれこれ工夫しながら、活動するのが楽しいから、そういう仲間を増やしたいから」と常々言っておられます。

採集型の漁業はもちろん、養殖型の漁業、収穫した魚の付加価値を高めるマーケティング、マーケティング、マーケティングの魚の付加価値を高めるマーケティング、うまく調和するツーリズム(海の青さを生かしてブルーリズムと命名されています)などを含む、という大きな構想です。

全国各地には、同じように熱心に取り組まれ、熱い気持ちと希望、構想を自分自身の言葉で語る方が大勢います。自分自身の言葉で地域の実情を語り、課題と希望、そして構想を共有することが、これからの公共政策、地域おこし、社会資本政策にとって、極めて重要だと考えています。

すぐに「次世代が希望を保持するような地域でありたい」「一緒に住み、活動してくれる仲間を増やしたい」「地域の人達と一緒に元気な気持ちになりたい」「地域の良さを再発見・発掘しそれらを訪れる方にも楽しんでほしい」「自分たちの地域の

このころは、その予告編です。私が聞かせていただいた言葉を紹介しま